

第9回定例委員会会議録

教 育 長) 開会宣言

教 育 長) 会議成立の宣言

教 育 長) 会議録署名委員の指名 (木村委員)

教 育 長) それでは、審議に入ります。日程第1、第16号議案「芦屋市立幼稚園規則の一部を改正する規則の制定について」を議題とします。提案説明を求めます。

管 理 課 長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教 育 長) 6クラス210人という数字の整合はどのような形でとっているのですか。

管 理 部 長) 35人掛ける6クラスです。

教 育 長) 4歳児の1クラスの人数は何人ですか。

管 理 部 長) 30人です。5歳児が35人です。

教 育 長) 5歳児の最大として6クラスを掛けたということですね。

管 理 部 長) そうです。

教 育 長) だから4歳児が3クラス、5歳児が3クラスという計算ではないのですね。

管 理 部 長) そうです。例えば5歳児が最大5クラスで4歳児が1クラスということも、可能性としてはないことはありません。最大の定員として210人許容できますよという許容量の表現です。

教 育 長) ということは、4歳児が0クラスで5歳児が6クラスですね。

管 理 部 長) そうです。許容量としてはそういうことです。

教 育 長) 6クラスでは210人という数字に全幼稚園がなっている

ということですか。

管理部長) そうです。どの幼稚園も35人掛けるクラス数で出しています。140人で4クラスも35人掛ける4クラスというです。

教育長) 5クラスだったら175人ですか。

管理部長) そうです。

教育長) 人数の多いほうをとるならば、210人から35人引くと175人になるのですが、この引き算するときにはなぜ30人を引いて180人にしなかったのですか。

管理部長) 単純に35人掛ける5クラスが175人です。

教育長) 多い数をとっているわけですね。

管理部長) そうです。同じ考えで行っています。

教育長) わかりました。

それでは、図面のほうの紹介をお願いします。

管理課長) 図面のほうにつきましては、完成する直前の教育委員会で管理部主幹から改めて説明をする予定です。あわせて、建物の様子を見ていただきたいとの話を伺っております。

管理部長) この地図では、現在の岩園幼稚園の園舎が反対側に来ることになります。岩園小学校側とは逆側のほうへ行きます。この地図で言いますと、遊具の絵が描いてあるところが今の園舎があるところになります。

教育長) 預かり保育室を1部屋とり、残りの部屋は7部屋あるということですね。7部屋で6部屋にしたということは、1つは図書室や絵本の部屋などと、余裕をもって建てるということですね。

管理部長) そうです。

教 育 長) もう1つ上になかったですか、2階だけでしたか。

管 理 部 長) 2階だけです。

教 育 長) 遊戯室の天井が低いなどという話がありましたが、そのよ
うなことはないのですね。

管 理 部 長) 遊戯室と職員室の位置は、基本的には変わらないです。

もう1つの表は、平成28年5月1日現在の状況を記載して
います。各園の園児数と、定員充足率を表していきまして、一番
下の段には合計1,330人の定員に対して園児数は569人
ということで、42.8%の充足率になります。この1,
330人というのは岩園幼稚園と浜風幼稚園を抜いた定員です。
来年は岩園幼稚園の210人が入り、定員が1,540人にな
ります。なので、今年と同じぐらいの合計の園児数になります
と、充足率としては30%台になってしまいます。

小 石 委 員) 今回210人に増やしたことはどのようなことが背景にあ
るのですか。充足率を見るとなかなか大変な感じもしますが、
定員が増えた理由を教えてくださいたいです。

管 理 部 長) 定員を増やした理由は、園舎を建てかえるにあたってその
まま同じ広さで行くのか、それとも余裕的な教室を確保するの
かという意味になります。やはり新しくなりますので、今まで
は4クラスだったところが、もしかしたら6クラスになる可能
性もあります。ですので、4歳児の場合では61人になれば
3クラスになります。5歳児の場合でも園児の合計が71人に
なれば、3クラスになる可能性があります。

小 石 委 員) 我々も期待はしています。

木 村 委 員) 建てかえてきれいになった場合に、本来私立の幼稚園に通

わせようと考えていた親が、公立幼稚園に入れようかということで園児数が増えたりなどの傾向はあるのですか。どのような見通しになっていくのかと思いました。1つは朝日ヶ丘地区の園児が岩園幼稚園に通うということも起きてくると思います。

管理部長) 現在は岩園幼稚園の近くの園児は、小槌幼稚園にも行っていただいています。

小石委員) 直近でいうと、2クラスだった最後の年は何人でしたか。

管理部長) 平成26年度は31人で、この人数は閉園前ですから平成25年度を見てください。4歳児が31人でぎりぎり2クラスになり、5歳児も67人なので2クラスになります。

小石委員) これはいい人数ですね。

管理部長) そうですね。5歳児の67人はあと4人増えると71人になるので3クラスになります。ですので、やはり許容範囲としては6クラス構えておく必要は、可能性としてはありますね。

浅井委員) 9月15日から広報に募集の要項が載るということですね。平成29年4月から岩園幼稚園は開園します。関心を持って市民の方も見守っていらっしゃると思いますが、ホームページには、9月15日に募集要項を載せるということは書いてあるのですが詳細ではなくても今後の予定など、もう少し載せられないのですか。他の私立幼稚園は、早めから説明会の日程などを掲載しています。早いところでは9月9日ぐらいにみどり幼稚園や甲陽幼稚園は掲載されていました。少しおくれてくると感じました。例えば、9月15日に初めてお知らせになり、市民の方が問い合わせをされたらどうでしょう。今の時点で幼稚園に問い合わせをされて、いつからどのような形で募集はされる

のですかと聞かれたときは、どのように返事をされるのですか。

学校教育部主幹) 今のところは9月15日号の広報あしやに記載をしますの
で、それを御確認くださいという返答を各幼稚園はしております。

浅井委員) もう少し先の情報を言うことはできないわけですか。

学校教育部主幹) 岩園幼稚園に関しましては園舎がないので、願書の配付や
受付は小槌幼稚園か朝日ヶ丘幼稚園でしていただくようになります。その情報は9月15日より前にホームページ上に
載せるという話を聞いているのですが、基本的に私学よりも
先にしてはいけないと言われておりますので、公立はとにかく
その9月15日をめどにしております。

浅井委員) そういうことなのですね。岩園幼稚園の願書のことはその
ように詳しく書かれていました。やはり、私立幼稚園との協定
という形ではあるのかなとは思っているのですが、何かお知り
になりたいという方がたくさんいらっしゃると思います。公立
幼稚園はその辺から少しずつおくれると、私立幼稚園が説明会
を早めからやることで、保護者の方はたくさんいらっしゃると思
います。せめて説明会だけでも同じような時期にスタートで
できると、市民の方も選択肢が広がると思い、お聞きしました。

学校教育部主幹) 私学よりも先にすることはないようには以前から言われ
ているのですが、今年度からは9月に全園がオープンスク
ールをしていますので、その情報は9月1日付の広報あしやに
載せております。保護者の方からも9月にオープンスクール
を行い幼稚園に来てもらうようにしたほうがいいと思います
との意見をいただいておりますので、本年度から継続して9月

はオープンスクールを行い、幼稚園に来ていただき、幼稚園のよさをお伝えする場を提供しています。

浅井委員) オープンスクールで星を見る会のことなどは、詳しく書かれていたのですが、そこで何かしらをお伝えするということはいかないのですか。

学校教育部主幹) 一貫して9月15日の広報あしやを確認くださいとしかお伝えできません。

浅井委員) わかりました。保護者の方や子どもたちに少しでも早く幼稚園の様子を知ってもらうという形でオープンスクールをされるのですね。

教育長) 新しい幼稚園が4月1日から開園しますので、学校教育部主幹にはかわいらしいパネルなどを作ってくださいました。たぐさんの税金を使う以上は、市民の方に知ってもらうことは大事なことだと思います。岩園幼稚園が来年4月1日から開園するので、願書もいつ配付しますということを伝えてほしいです。定員が何人になるのかということは別の話としても、岩園幼稚園の開園は決定しているので、みなさん来てくださいねということも伝えても、何にも問題はないと思います。私学よりも先に言うてはいけないとなっているのはなぜですか。

学校教育部主幹) 随分前からポスターを張るのも広報あしやに載ってからでないと張っていけないと言われてきていましたので、そのようにしています。

教育長) 市民の方に質問されたら広報あしやを確認くださいと言わずに、来年4月1日から開園しますよ、いい幼稚園ができますからね。しかしまだ工事中で見ることはできませんが、募集し

ますねということぐらいを伝えることは親切なことだと思います。

管理部長) そうですね。それは言ってもいいと思います。

教育長) 逆に言わないといけないことだと思います。

管理部長) 説明会の開催の情報を提供することは過去の慣習によって9月15日以降の私立幼稚園の状況を見てとなるのですが、教育長のおっしゃる今のそのアナウンスは、パネルも張っておりますし、必ず開園するのですから伝えてよいことだと思います。

教育長) 芦屋市のホームページのトップに岩園幼稚園は4月にオープンしますということを見える形にしたほうが丁寧だと思います。

浅井委員) 現在は、休園中ですということの方がしっかり書かれています。ですので、開園の日時が少しわかりにくいと思います。

教育長) 一工夫をしていただきたいです。

木村委員) そもそも協定とは何か。協定書みたいなものがあるのですか。

管理部長) 協定書みたいなものはないです。

木村委員) ないけれども何か慣習のようなものなのですか。

管理部長) そうですね。

木村委員) 現在、私学の方々とそのようなことを確認し合う場や、話し合う場は教育委員会にはあるのですか。

管理部長) 正式なものはないのですが、この間も私学の園長先生との話し合いというものを行いました。しかし、協定書みたいなものはありませんし、まずその協定を結ぶ根拠がありませんし。

木村委員) よくわからない何かに縛られるような感じで、いいのかなというのを感じます。そのものがあつたのなら、むやみに破ってはいけないとは思いますが、そのようなことをしっかりと話し合いをし、その中でもし合理性があれば、それはそれでいいと思うのですが。

小石委員) 合理性はないでしょうね。一応、私立幼稚園を立ててということでしょうね。

管理部長) そうです。立てる、立てないという話だと思います。

木村委員) 公立幼稚園で3歳児保育はしないというのは、そこですみ分けをしているということはなんとなくはわかります。しかし別にもういいのではないかというものまで守る必要もないと思います。もしそこで少し角が立つ恐れがあるのであれば、一度中身も含めて話し合いをするということをやってもいいのではないかと思います。

小石委員) 周辺の私立幼稚園の充足率はわかりますか。

管理課長) 学教審のほうでお話があつたのは、芦屋市内の私立幼稚園は、ほぼ9割方になります。

小石委員) 9割方。すごい差ですね。

管理部長) 全体で93.4%ですね。そのうち市内のお子さんが来ているのは67%になります。ですので、残りは市外からのお子さんになります。

小石委員) 調査をするべきかもしれないですね。どのようにするといいかはわかりませんが、なぜ私学に行かれるかということの理由が気になります。3年保育なのか、あるいはもっとほかにあるのか、その辺の理由をしっかりと調べる必要がありますね。

木村委員) ただ、3歳児保育をやっているところですかね。

小石委員) それが決定的ですかね。

木村委員) そこはやはり非常に大きいのではないですか。

管理部長) 私立の幼稚園の園長先生のお話ですと、3年保育の中で4歳、5歳から私立に来る子はほとんどいらっしゃらないそうです。3歳から来て3年間通うことなので、やはり3年保育というのが私立の最大の売りになっていると思います。

小石委員) 私立幼稚園はそれぞれ何かセールスポイントのようなものを持っていて、お母さん方はそのようなものにひかれるのではないかという気がします。早くから教育を始めてくれるのではないかということや、その影響はどれぐらいあるのかということとはすごく気になっていると思います。それに魅力を感じて行っている人がどれぐらいで3年にひかれていますの方がどれぐらいかというのがすごく気になります。

木村委員) 前に少しお話ししましたが、3歳児も公立幼稚園で保育をするというのであれば、認定こども園の方向性で、充足していくべきではないかと思います。

しかし、本当に純粋に教育効果として2年保育がいいのか3年保育がいいのかというところはどうでしょうか。そういうのはある程度傾向というものが出てきているのですか。

管理部長) それは早いにこしたことはないですね。

小石委員) 親のもとに3年までは置きなさいという考え方は、昔流行したものです。そのようなことが影響していて、4歳児からの2年保育でいいのではないかというところがあったのかが気になります。その考え方が別段決定的だと思っているわけでは

ないです。

管 理 部 長) 幼稚園の先生と話をする機会がありました。どれだけ確かな話かはわかりませんが、あるベテランの先生が、15年ほど前に、芦屋の公立幼稚園でも3歳保育をやる機運が高まり、幼稚園の先生の中でも3歳保育を研究し始めたそうです。しかし結局方針としてやはり3歳保育はしないということになりました。その理由は小石委員のおっしゃるとおり、3歳までは家庭で育てることが大事だというような理由でその研究が途絶えたそうです。

小 石 委 員) 1970年代に、3歳児ということが非常に重要な時期だと言われた時期はありました。

学校教育部主幹) 15年はとても期間が長いです。2・3歳児の子どもはもう友達を目で追い、とても興味を持つ時期になるので、お母さんと一対一で遊ぶことに少し物足りなさを子ども自身も感じてくるようになります。いやいや期にもなりますので、一対一で親が面倒をみるというのは、煮詰まってきてしまいます。お母さん方もうまく公園デビューをされない方も出てこられているので、幼稚園に入るまで公園で遊ばせたことがないという方も、人数が多いわけではないのですがいらっしゃいます。そして、健康診断の時も、おむつをしてくる子が出てきています。15年前はそういうことはなかったのですが、3歳でおむつがとれない子も出てきました。

小 石 委 員) 最近はおむつがとれるのがだんだんおくらせていますからね。

学校教育部主幹) 家庭の教育力が低下している部分もあります。

小 石 委 員) 家庭の教育力だけではなく、おむつの品質がよくなったか

らということもありますね。

学校教育部主幹) 子どもの視点から見てもお母さんの視点から見ても、集団教育の場は必要だと感じます。

小石委員) 子どもたちが子どもの中で育ち、集団の力が子どもたちにとってどうかということは、もう1度検討する必要があると思います。

浅井委員) いろいろな形でヒアリングしてくださっていると思うのですが、この間の3月か4月に管理課長と学校教育部主幹が私立に通わせている方からいろいろ意見を聞いてくださったと思うのですが、どのようなことをおっしゃっていましたか。

管理課長) 私立に通っている保護者の方は、芦屋の公立幼稚園のよさは徒歩で通園できるというところになります。自然との触れ合いや子どもとの距離の近さ、自分の足で歩き、その道中に子どもとお話ができたりすることがすごくいいと感じるそうです。しかし私立幼稚園のよさも、もちろんありますし、選択肢の中には私立幼稚園があっても公立幼稚園があってもいいと思います。それぞれが両方のよさを見習い、親がどちらの幼稚園もいいなとなるように、周りの保護者の方の意見や子どもたちの気持ちなどいろんなものを取り入れていくのがいいと思いますとのことでした。いろいろおっしゃってくださったのですが、今は資料を持っておりませんので、改めて報告はさせていただきます。

浅井委員) お願いします。

竹馬やけん玉を熱心にやっているところや、遊びの中でうまく教育しているという部分など、その保護者の方が提案してく

ださったことは、芦屋の公立幼稚園ではすでに行われていることが多い、ということなんですね。

管理課長) 最後に、やはりアピールするところが弱いと感じるとおっしゃっていました。実際に行ってみて、気づくことはあるのですが、オープンスクールなどに行けなかったりするとわからないことが多いとのことでした。学校教育部主幹が説明されると、そんなにいいことをしているのでしたら、もっと発信すればいいのにとのことでした。そのことがホームページ上でも、お母さんからの口コミでも伝わってはきていませんということをとでも強くおっしゃっていました。

学校教育部主幹) その内容は園長先生方にもお伝えしています。教育方針や、このような力をつけますということはよく書いてあるのですが、結局中で何をしてるのかわからないとおっしゃられました。具体的には竹馬などの活動もしているのですが、園外保育で歩くことをすごく大事に思っていることを感じましたので、そのようなこともしていますということはお伝えしたのですが、実際何をしてもらえるのかがわからないという意見でした。ですので、来年からは園長先生方は、具体的に何を、どのような経験ができるかという内容のリーフレットをつくる予定にされているとのことでした。

浅井委員) そうですか。

小石委員) 私学で売りにしているものは、それぞれ何かごらんになっていますか。例えばこの私立幼稚園ではこんな売り文句だということの資料をお持ちですか。

学校教育部主幹) 私立幼稚園の、ホームページは時々チェックしてはいます。

小石委員) 私立幼稚園の売り文句に引かれているお母さん方がどれぐらいいるのか。単に3年保育を行っているということだけではなく教育方針みたいなものにひかれて行っているというのだとしたら、芦屋は芦屋の1つの教育方針みたいな、多分、伝統的な幼児教育の考え方を公立はとっていると思うのですが、そのようなことをやっていますということで、それぞれ選択肢があっていると思います。親のどういう教育方針に従って、どれぐらいの方が私立幼稚園に行っておられるのかが気になります。英語を早くからやらせたいという人がいたら、やっているところへやるとか、漢字を早くやるというところがいいなと思えばそういうところへ行けばいいと思います。しかし、公立幼稚園は伝統的な遊び中心の教育をやっていますという売り文句でいいと思います。

芦屋の公立幼稚園のようなやり方も1つのアピールポイントです。そのようなことに共感する親御さんもいらっしゃいます。自然と触れ合う遊びを中心に行うことで、子どもの成長を期待するお母さん方もおられると思います。

学校教育部主幹) 私立幼稚園と公立幼稚園の両方に通わせたことのある保護者の方に高く評価していただくことはよくあります。子どもがよく体も動かしているので、生き生きしているということを知ります。しかし、例えば伊勢幼稚園の前には3園の私立幼稚園の園バスがとまりますので、伊勢幼稚園の前を歩いて私学に通っている子もいるのですが、その保護者の方々が伊勢幼稚園の保護者にお話ししたことで言えば、私立幼稚園にはPTAがないということ、午後からはおけいこごとをして

くれるということ、通園バスがあり給食があることなどになります。ですので、ニーズはいろいろあるのだと思います。

小石委員) 3年保育だけがポイントなのかどうかというのがすごく気になりました。

管理部長) 芦屋からよく行かれています、いるか幼稚園のホームページを資料としてもっているのですが、いるか幼稚園の教育方針は、2本柱になっていて、1本目は自立心とやる気を育てる。2本目は、優しさのある子どもを育てるになります。それが大きな教育目標になっています。教育方針は4本あり、個性を育てる、社会のルールを学ぶ、一緒に成長する、立腰教育ということになっております。ホームページをずっと見ていくと、園バスの絵が出ていて、給食をしていますということも載せられています。子どもたちの遊びとしては、俳句遊びを週1回全園児が行っています。英語遊びにおいては年長は週1回、年中は月2回、年少は月1回になります。音楽遊びも月1回全園児が行い、その他にも自然遊び、レクリエーション遊びなどを行っていますということが書かれています。

そして預かり保育は、午後8時まで。朝は8時から開園しています。園長先生だけが残っておられるのか交代でやっておられるのか。職員の勤務時間の問題があるので公立は4時半までになっています。

教育長) 委員の皆さんの思いとしては、幼稚園は幼稚園として就学前教育の場として大切だということです。

他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

これより採決いたします。本案は、原案どおり可決することに御異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認めます。よって本案は可決されました。

〈第16号議案採決。結果、可決（出席委員全員賛成）〉

教 育 長) 閉会宣言